

♪汽車

一、今は山中（やまなか） 今は浜（はま）
今は鉄橋渡るぞと
思う間も無く（まもなく） トンネルの
間（やみ）を通過して広野原（ひろのはら）

二、遠くに見える村の屋根
近くに見える町の軒（のき）
森や林や田や畠（はたけ）
後へ（あとへ）後へと飛んで行く

三、回り燈籠（まわりどうろう）の絵のよう
に
変わる景色のおもしろさ
見とれてそれと知らぬ間に
早くも過ぎる幾十里（いくじゅうり）

♪田植

一、そろた 出そろた
さなえが そろた
植えよう 植えましょ
みんなのために
米はたからだ たからの草を
植えりゃ こがねの花が咲く

二、そろた 出そろた
植え手も そろた
植えよう 植えましょ
みんなのために
ことしゃほう年 穂（ほ）に穂が咲いて
みちの小草（こぐさ）も 米がなる

♪みどりのそよ風

一、みどりのそよ風 いい日だね

蝶蝶（ちょうちょ）もひらひら 豆の花
七色畑に 妹の
つまみ菜つむ手が 可愛いな

二、みどりのそよ風 いい日だね
ぶらんこゆりましょ うたいましょ
巣箱の丸窓（まるまど） ねんね鳥（どり）
ときどきおつむが のぞいてる

三、みどりのそよ風 いい日だね
ボールがぽんぽん ストライク
打たせりゃ二塁の すべり込み
セーフだおでこの あせをふく

四、みどりのそよ風 いい日だね
小川のふなつり うきが浮く
静かなさざなみ はねあげて
きらきら金ぶな 嬉しいな（うれしいな）

五、みどりのそよ風 いい日だね
遊びにいこうよ 丘越えて
あの子のうちの 花ばたけ
もうじき苺（いちご）も 摘める（つめる）
とさ

♪故郷を離るる歌

一、園（その）の小百合（さゆり） 撫子（な
でしこ） 垣根の千草
今日は汝（なれ）をながむる最終（おわり）
の日なり
おもえば涙 膝（ひざ）をひたす さらば故
郷
さらば故郷 さらば故郷 故郷さらば
さらば故郷 さらば故郷 故郷さらば

二、つくし摘みし（つみし）岡辺（おかべ）

よ 社（やしろ）の森よ
小鮒釣りし小川よ 柳の土手よ
別るるわれを憐（あわれ）と見よ さらば故郷

さらば故郷 さらば故郷 故郷さらば
さらば故郷 さらば故郷 故郷さらば

三、此処に（ここに）立ちて さらばと 別
（わかれ）を告げん

山の蔭（かげ）の故郷 静かに眠れ
夕日は落ちて たそがれたり さらば故郷
さらば故郷 さらば故郷 故郷さらば
さらば故郷 さらば故郷 故郷さらば

♪太平洋

一、波濤（はとう） 千里 洋々と
東にうねり 西に寄せ
日出ずる国の 暁（あかつき）に
雄々しく歌う（うとう） 海の歌
黒潮越えて いざ行かん
われらの海よ 太平洋

二、怒濤（どとう） 万里（ばんり） 渺々
（びょうびょう）と
南に走り 北に去り
日出ずる国の 島かげに
ほがらに歌う（うとう） 海の歌
波乗り越えて いざ行かん
われらの海よ 太平洋

♪鎌倉

一、七里ヶ浜（しちりがはま）の いそ伝い
（いそづたい）
稲村ヶ崎（いなむらがさき） 名将（めいし
ょう）の

剣投ぜし（つるぎとうぜし） 古戦場

二、極楽寺坂（ごくらくじざか） 越え行け
ば

長谷観音（はせかんのん）の 堂（どう）近
く
露座の大仏（ろざのだいぶつ） おわします

三、由比の浜辺（ゆいがはまべ）を 右に見
て

雪の下村（したむら） 過ぎ行けば
八幡宮（はちまんぐう）の 御社（おんやし
ろ）

♪背くらべ

一、柱のきずは おととしの
五月五日の 背くらべ
粽（ちまき）たべたべ 兄さんが
計って（はかって）くれた 背のたけ
きのうくらべりゃ 何のこと
やっと羽織（はおり）の 紐（ひも）のたけ

二、柱に凭れりゃ（もたれりゃ） すぐ見え
る
遠いお山も 背くらべ
雲の上まで 顔だして
てんでに背伸（せのび）していても
雪の帽子を ぬいでさえ
一は（いちは） やっぱり 富士の山

♪赤い帽子白い帽子

一、赤い帽子白い帽子 仲よしさん
いつも通るよ 女の子
ランドセルしょって お手々をふって
いつも通るよ 仲よしさん

二、赤い帽子白い帽子 仲よしさん
いつも駆けてく（かけてく） 草の道
おべんとうさげて お手々をくんで
いつも駆けてく 仲よしさん

三、赤い帽子白い帽子 仲よしさん
いつもたのしい 笑い声
おひより小みち かげぼうしふんで
いつもたのしい 仲よしさん

四、赤い帽子白い帽子 仲よしさん
いつも可愛い（かわいい） 歌い声
黒い靴（くつ）はいて 赤い靴はいて
いつも可愛い 仲よしさん

♪人形

一、わたしの人形は よい人形
目はぱっちりと いろじろで
小さい口もと 愛らしい
わたしの人形は よい人形

二、わたしの人形は よい人形
うたをうたえば ねんねして
ひとりでおいても 泣きません
わたしの人形は よい人形

※一番をもう一度

♪金魚のひるね

一、赤いべべ着た
可愛い（かわいい）金魚
おめめをさませば
御馳走（ごちそう）するぞ

二、赤い金魚は
あぶくを一つ
昼寝（ひるね）うとうと
夢からさめた

※一番をもう一度

♪黄金虫

一、黄金虫は 金持ちだ
金蔵（かねぐら）建てた（たてた） 蔵建て
た
飴屋（あめや）で水飴 買って来た

二、黄金虫は 金持ちだ
金蔵建てた 蔵建てた
子供に水飴 なめさせた

※一番をもう一度

♪お山のお猿

一、お山のお猿は 鞆（まり）がすき
とんとん鞆つきや 踊りだす
ほんにお猿は どうけもの

二、赤い衣（べべ）きて 傘（かさ）さして
おしゃれ猿さん 鞆つけば
お山の月が 笑うだろ

※一番をもう一度

♪あの町この町

一、あの町この町 日が暮れる
日が暮れる
今きたこの道 帰りゃんせ

帰りゃんせ

二、お家（おうち）がだんだん 遠くなる
遠くなる
今きたこの道 帰りゃんせ
帰りゃんせ

三、お空に夕べの 星が出る
星が出る
今きたこの道 帰りゃんせ
帰りゃんせ

♪シャボン玉

シャボン玉とんだ
屋根までとんだ
屋根までとんで
こわれて消えた

シャボン玉消えた
飛ばずに消えた
うまれてすぐに
こわれて消えた

風 風 吹くな
シャボン玉とばそ

※最初からもう一度

♪カチューシャの唄

一、カチューシャかわいや わかれのつらさ
せめて淡雪 とけぬ間と
神に願いを ララ かけましょか

二、カチューシャかわいや わかれのつらさ
今宵一夜に 降る雪の

明日は野山の ララ 路かくせ

三、カチューシャかわいや わかれのつらさ
せめて又逢う それまでは
おなじ姿で ララ いてたもれ

四、カチューシャかわいや わかれのつらさ
つらいわかれの 涙のひまに
風は野を吹く ララ 日はくれる

五、カチューシャかわいや わかれのつらさ
ひろい野原を とぼとぼと
ひとり出ていく ララ あすの旅

♪宵待草

待てど 暮らせど
こぬひとを
宵待草の
やるせなさ
こよいは月も
出ぬそうな

※繰り返し

♪十五夜お月さん

十五夜お月さん
ご機嫌（ごきげん）さん
婆や（ばあや）はお暇（おいとま）
とりました

十五夜お月さん
妹は
田舎（いなか）へ貰られて（もられて）
ゆきました

十五夜お月さん
母さん（かかさん）に
も一度（もいちど）わたしは
逢いたいな（あいたいな）

♪お家忘れて

一、お家（おうち）忘れた 子ひばりは
広い畑の 麦の中
母さんたずねて ないたけど
風に穂麦（ほむぎ）が 鳴るばかり

二、お家忘れた まよいごの
ひばりはひとり 麦の中
お山の狐（きつね）は なかぬけど
暮れて（くれて）さみしい 月あかり

※一番をもう一度

♪ペチカ

一、雪の降る夜は 楽しいペチカ
ペチカ燃えろよ お話しましょ
昔むかしよ 燃えろよペチカ

二、雪の降る夜は 楽しいペチカ
ペチカ燃えろよ おもては寒い
栗や栗やと 呼びますペチカ

三、雪の降る夜は 楽しいペチカ
ペチカ燃えろよ じき春来ます
いまにやなぎも もえましょペチカ

四、雪の降る夜は 楽しいペチカ
ペチカ燃えろよ だれだか来ます
お客さまでしょ うれしいペチカ

五、雪の降る夜は 楽しいペチカ
ペチカ燃えろよ お話しましょ
火の粉パチパチ はねろよペチカ

♪琵琶湖周航の歌

一、われは湖（うみ）の子 さすらいの
旅にしあれば しみじみと
のぼる狭霧（さぎり）や 漣（さざなみ）の
滋賀（しが）の都よ いざさらば

二、松は緑に 砂白き
雄松が里（おまつがさと）の 乙女子（おと
めご）は
赤い椿（つばき）の 森陰に
はかない恋に 泣くとかや

三、波の間に間に 漂えば
赤い泊灯（とまりび） 懐かしみ（なつかし
み）
行方定めぬ（ゆくえさだめぬ） 浪枕（なみ
まくら）
今日は今津（いまづ）か 長浜（ながはま）
か

四、瑠璃（るり）の花園（はなぞの） 珊瑚
の宮（さんごのみや）
古い伝えの 竹生島（ちくぶじま）
仏の御手（みて）に 抱かれて
眠れ乙女子 安らけく